

養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすために必要な
要素の構造化
— 心身の健康問題を持つ子どもへの支援における事例分析から（第1報）—

内田清香*・海老澤紫**・片山美千恵***・高橋裕子****・斉藤ふくみ*****
(2017年8月31日受理)

Structuring of Elements Necessary for the School Nurse Teachers to Fulfill the
Role as a Coordinator
From the Case Analysis on the Support for Children with Mental and physical
health difficulties First Report Sample Form of a Paper

Kiyoka UCHIDA*, Yukari EBISAWA**, Michie KATAYAMA***, Yuko TAKAHASHI****
and Fukumi SAITO*****
(Accepted August 31, 2017)

Abstract

Objective: This study aims to clarify the role of school nurse teachers in coordinating support for children with mental and physical difficulties as a coordinator. The purpose was to create a structural model of the elements necessary to fulfill the role as a coordinator.

Method: A questionnaire survey was conducted for school nurses teacher in M city. The degree on the importance of elements in coordination we got responses on the scales of four levels, which were statistically processed using SPSS. In the case of coordination, free description about correspondence was coded and categorized by “Qualitative Descriptive Research”, and a structural diagram was created.

*茨城大学教育学部附属特別支援学校（〒312-0032 ひたちなか市津田1955；Ibaraki University, Special Needs Education School, Hitachinaka 312-0032 Japan）.

**茨城大学教育学部附属幼稚園（〒310-0011 水戸市三の丸2-6-8；Ibaraki University, Kindergarten, Mito 310-0011 Japan）.

***茨城大学教育学部附属中学校（〒310-0056 水戸市文京1-3-32；Ibaraki University Junior High School, Mito 310-0056 Japan）.

****茨城大学教育学部附属小学校（〒310-0011 水戸市三の丸2-6-8；Ibaraki University Elementary School, Mito 310-0011 Japan）.

*****茨城大学教育学部教育保健学教室（〒310-8512 水戸市文京2-1-1；Department of Education Health, College of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）.

Results: Many categories were extracted at all stages of Discovery of Needs, Assessment, Planning, Implementation and Evaluation.

The Stage of Discovery of Needs and Assessment; It became clear that the ability of S.N.T. themselves had a big influence (【utilization of medical and nursing knowledge】, 【ability to interpret problems】 etc.).

The Stage of Planning, Implementation, and Evaluation; It also became clear that factors related to the environment other than School Nurses teacher (【common understanding of support policy】, 【utilization of social resources】 etc.) also have a big influence.

Since school nurses teacher collaborate with many stakeholders, they are working to draw out the characteristics of different positions and roles and to make them function effectively. We think that it will become possible to fulfill a role as a coordinator more by putting practices based on the extracted elements.

はじめに

近年、社会環境や生活環境の急激な変化は子どもの心身の健康にも大きな影響を与えており、学校生活においても生活習慣の乱れ、いじめや不登校、児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性の問題行動や薬物乱用、感染症など、新たな課題が顕在化している。そのような中、平成20年1月の中央教育審議会答申では、学校における健康・安全に係る取組は、その性質上、家庭との連携、地域との連携が強く求められるものであり、健康・安全における連携は、学習指導面や生活指導面において必要となる家庭や地域との協力関係の基礎を築く上でも重要な役割を果たすものとして位置づけられると示された¹⁾。そして、連携を推進することが必要となっている中、養護教諭がコーディネーターとしての役割を担う必要があるとされた¹⁾。

また、社会や経済の変化に伴い、子どもや家庭、地域社会も変容したことによる生徒指導上の課題や特別支援教育への対応など、子どもを取り巻く環境が複雑化・困難化していること、貧困問題への対応や地域活動など、学校に求められる役割が拡大したことから、「チームとしての学校」が求められるようになってきている。平成27年12月の中央教育審議会答申では、養護教諭は、子どもの身体的不調の背景に、いじめや虐待などの問題がかかわっていること等のサインにいち早く気付くことのできる立場にあること、養護教諭は学校保健活動の中心となっている保健室を運営し、関係職員や専門機関との連携のコーディネーター的な役割を担っている²⁾ことなどの現状が記された。さらに、今後はスクールカウンセラーやソーシャルワーカーが配置される学校において、それらの専門スタッフとの協働が求められることから、協働のための仕組みやルールづくりを進めることが重要である²⁾とされた。

養護教諭は上述したような役割の重要性を認識し、それぞれの子どもの健康問題に応じてコーディネーターとしての役割を果たそうと努力している。しかし、具体的な手法や知識は乏しく、これまでの経験から模索しているのが現状である。また、養護教諭自身の能力の問題や管理職のリーダーシップ、学校全体の人間関係、関係機関とのやりとりなどの問題により、困難感を抱くことがある。

そこで、本研究は、水戸市養護教諭部会の会員を対象に、心身の健康問題を持つ子どもへの支援において養護教諭がコーディネートした事例について、質問紙調査やインタビュー調査を実施し、結果を分析することにより、養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすために必要な要素の構造モデルを作成することを目的とする。

対象及び方法

1. 基本的な考え方

1) 「連携」とは

「連携」とは、多様な分野の個人や組織が、同じ目的に向かって異なる立場でそれぞれの役割を果たしつつ、互いに連絡をとり、協力し合って取り組むことである³⁾。

2) 「コーディネーター」とは

「コーディネート」とは、個人や組織等、異なる立場や役割の特性を引き出し、調和させ、それぞれが効果的に機能しつつ、同じ目標に向かって全体の取組が有機的、統合的に行えるように連絡・調整を図ることである。このような連絡・調整役を「コーディネーター」という³⁾。

3) 「養護教諭がコーディネーターの役割を果たすために必要な要素」について

先行研究では、養護教諭がコーディネーターの役割を果たすために必要な要素について、養護教諭自身の能力⁴⁾と養護教諭以外の環境にかかわる要素³⁾⁵⁾の概念が示されている。本研究においては、先行研究をもとに研究を進める。

2. 研究の方法

1) 研究の対象

2016年2月16日から2016年3月16日の期間に水戸市養護教諭部会に属する小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校に勤務する養護教諭（64名）を対象にした質問紙調査を実施した。有効回答数は36（回収率56.3%）であった。

[調査対象者の属性（表1、表2）]

表1 調査対象者の現任校 (人)

小学校	中学校	特別支援学校	中等教育学校
21	11	3	1

表2 調査対象者の経験年数 (人)

1年未満	1～3年	4～9年	10年以上	20年以上	30年以上
4	3	7	8	10	4

2) 研究の方法

- ① 養護教諭がコーディネートする際の要素（先行研究^{3) 5)}より）の重要度について・4段階の尺度で回答を得たものについては、SPSSを用い統計処理を行う。
- ② コーディネートした事例での対応に関する自由記述について・質的記述的研究^{6) 7)}により、コード化、カテゴリー化して構造図を作成する。

【質的記述的研究法の分析手順と構造図の作成について】

- ①自由記述を文章またはキーワードごとに拾い上げ、データのコード化を行う。
- ②類似する意味内容のコードを分類し、サブカテゴリーを抽出する。
- ③サブカテゴリーを類似する意味内容でさらに分類し、カテゴリーを作成する。
- ④養護教諭がコーディネートする過程において、それぞれの段階ごとにカテゴリーを整理し、関係性を検討し、構造図を作成する。

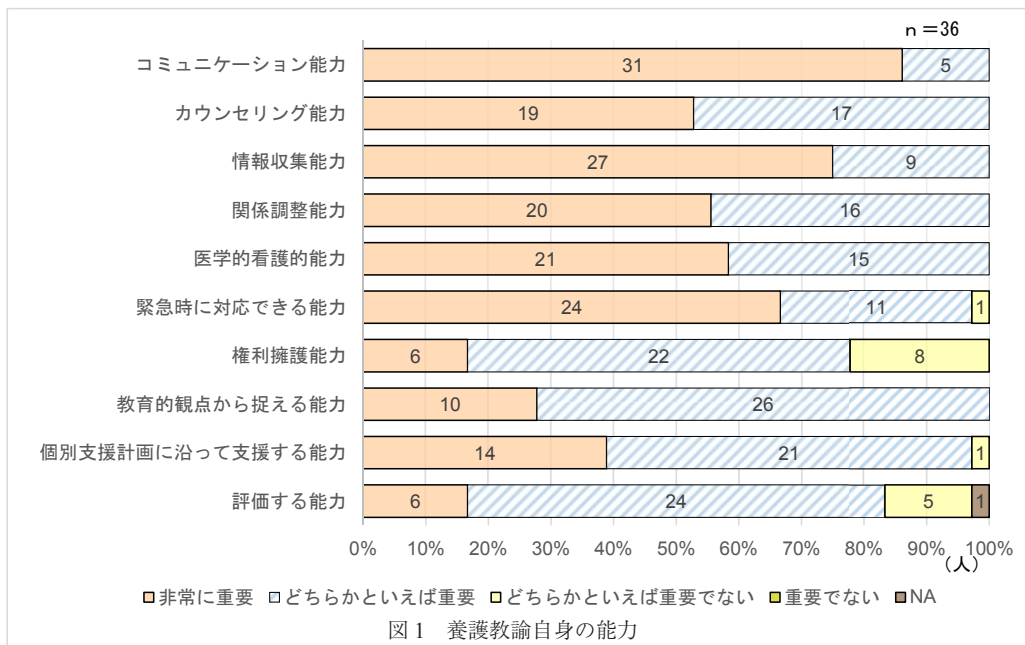
3. 倫理的配慮

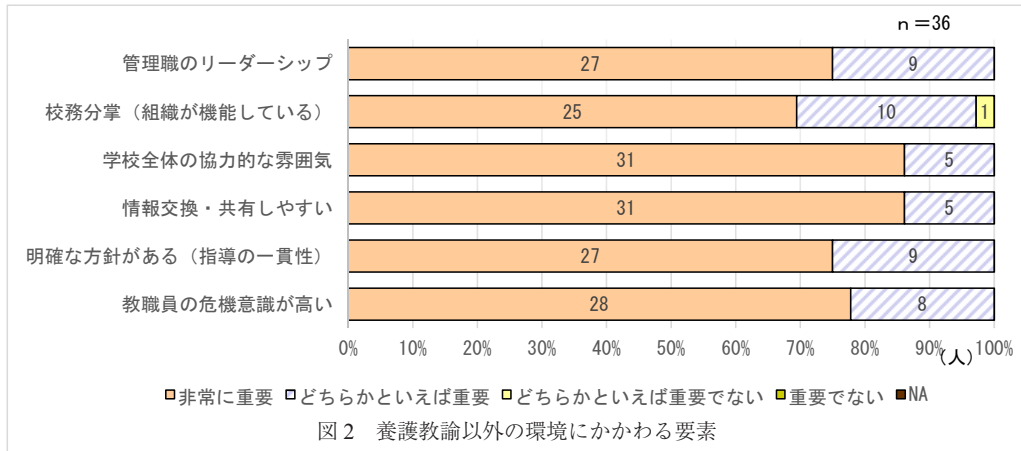
本研究の事例については、プライバシーの保護を重視し、データ等の扱いについては厳重に行っており、養護教諭に対して研究目的等を伝えて承認を得た。

結果

1. 養護教諭がコーディネートする際に必要な要素^{3) 5) 8)}の重要度

養護教諭がコーディネートする際に必要な要素の重要度について4段階の尺度で回答を得た結果を図1と図2に示した。





2. 事例の対応について自由記述した結果のカテゴリー一覧

養護教諭がコーディネートした事例の対応について自由記述した結果を質的記述の研究法によりコード化、サブカテゴリー化、カテゴリー化した表を表3～表9に示した。コードは275抽出され、101サブカテゴリー、54カテゴリーが抽出された。

表3 「ニーズの発見」段階におけるカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
医学的・看護的知識を活用する能力	・医学的・看護的知識を持って問題として受け止める	8
子ども本人の状況からニーズを把握する能力	・子ども本人の保健室の利用状況	6
	・子ども本人の気持ち・状況を受け止める	4
保護者の要望を受け止め把握する能力	・保護者からの要望	6
対応が必要と見極める能力	・健康診断の結果から対応が必要と判断する	2
	・正確な情報を見極める	1
	・身体測定等の結果から情報を収集・分析する	1
担任の困り感や危機意識を把握する能力	・担任の危機意識	1
	・担任の困り感	1

表4 「アセスメント」段階におけるカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
問題を見立てる能力	・収集した情報を総合して問題を見立てる	16
医学的・看護的知識を活用する能力	・医学的・看護的知識を持って問題として受け止める	7
問題を分析する能力	・会話から（状況把握と分析）	4
	・面談から（状況把握と分析）	3
対応が必要と判断する能力	・医療機関につなぐ緊急性を判断する	4
	・周囲への対応が必要と判断する	1

表5 「計画立案」段階におけるカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
報告・連絡・相談	・報告・連絡・相談	12
資源の活用計画	・関係機関・専門職とのネットワーク	9
	・中学校へ連絡	1
	・本人の力になってくれそうな人物と接触する	1
子ども本人の心身の安定を確保するための計画	・子ども本人の心身の安定を図るための受容的対応	6
	・子ども本人の心身の安定を図るための場の確保	3
	・子ども本人の安全を確保する	1
保護者との連絡調整に関する計画	・保護者との連絡調整に関する計画立案	6
支援方針の共通理解	・支援方針の共通理解	5
役割分担	・養護教諭が間に入って人間関係の調整	3
子ども本人が自立できるような支援の計画	・子ども本人が自立できるような支援の計画立案	3
支援方針を子ども本人と確認	・支援方針を本人と確認する	1
	・支援方針・各自の役割を保護者と確認する	1
経過の見守り	・経過を見守り評価する計画立案	1
他の子どもへの対応	・他の子どもへの保健管理	1

表6 「実施」段階におけるカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
養護教諭の専門性を生かした継続的な心のケア	・養護教諭の専門性を生かした継続的な心のケア	11
社会資源の活用	・地域の医療機関や関係機関への働きかけ	8
	・関係機関や医療機関の協力	4
	・関係者の好意による支援	3
	・スクールカウンセラーの専門性を生かした役割の実行	1
支援方針の確認	・会議で対応や支援方針の確認	8
役割の実行・移行	・担任ならではの子ども本人・保護者・周囲（クラス・友人）への働きかけ	6
	・職員が行う緊急時における適切な支援	1
	・役割の移行	1
子ども本人の自立を支え、教育を受ける権利を保障する支援	・学習時間の保障	4
	・居場所の保障	4
	・本人の自信・やる気につなげる働きかけ	3
養護教諭が行う関係者との連絡調整	・養護教諭が行う校内の関係者をつなぐための連絡調整	4
保護者や家庭への継続的な支援の実施	・子ども本人をサポートしてくれる家族への支援	3
	・保護者への継続的な支援の実施	2

表7 「評価」段階におけるカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
子ども本人の状況	・子ども本人の行動の変容	5
	・子ども本人の心の変容	3
	・子ども本人の身体面の変容	1
	・子ども本人の周囲とのかかわりの変容	1
	・子ども本人の状況後退の要因	1
役割の実行	・関係職員との連携の効果	3
	・子ども本人とかかわった職員との評価	2
	・関係機関の評価	2
	・養護教諭の専門性を生かした心のケアの効果	1
	・スクールカウンセラーの専門性を生かした効果	1
	・各関係者による評価の確認	1
	・連携の不備	1
医療・看護的知識の活用	・医療・看護的知識を生かしたことへの評価	3
今後の展望	・計画の見直し	1
	・別な視点（医療・カウンセリング）からのアプローチを加える	1
	・ステップアップのための目標設定	1
管理職のリーダーシップ	・管理職のリーダーシップの効果	1
記録の活用	・記録を生かした評価	1

3. 養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすために必要な要素の構造図

養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすために必要な要素の構造図を岡本らのコーディネーション過程⁴⁾をもとに作成し、図3に示した。

考察

以下の考察は『 』をカテゴリー、「 」をサブカテゴリーで示す。

1. 養護教諭自身の能力では〈コミュニケーション能力〉〈情報収集能力〉を“非常に重要”と回答する割合が多かった（図1）。一方、養護教諭以外の環境にかかわる要素は、〈学校全体の協力的な雰囲気〉〈情報交換・共有（しやすい）〉を“非常に重要”と回答する割合が多かった（図2）。養護教諭がコーディネーターの役割を果たすためには、養護教諭自身の能力より養護教諭以外の環境にかかわる要素の方が“非常に重要”と捉えていることが明らかになった [$p < 0.001$]（図1, 図2）。
2. ニーズの発見, アセスメントの段階では、『医学的・看護的知識を活用する能力』のコード数が多く、養護教諭が対応する際の重要な要素となっているが、この段階での養護教諭はどちらかと言えば支援者としての立場で対応している。実施の段階では、支援者と、コーディネーターの

表8 「困難に感じたこと」についてのカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
保護者の理解が得にくい	・保護者の理解が得にくい	5
教職員間の意識の違い	・教職員の意識の違い	3
	・担任の力量の問題	2
	・専門家と学校側の意識の違い	1
子ども本人の特性	・子ども本人の特性によるかわりづらさ	2
	・子ども本人の問題	1
	・子ども本人との関係を築く難しさ	1
組織が機能しない	・教職員との連携の難しさ	2
	・組織がうまく機能していない	1
関係機関の問題	・関係機関につなげる難しさ	2
	・関係機関の限界	1
家庭の問題に介入することの難しさ	・家庭の問題に介入することの難しさ	2
	・虐待の問題に介入することの難しさ	1
管理職のリーダーシップ不足	・管理職のリーダーシップ不足	2
対応の場・時間を設定する難しさ	・対応の場・時間を設定する難しさ	2
一人職ならではの困難さ	・一人職ならではの困難さ	2
見立ての難しさ	・見立ての難しさ	1
	・日々変化する子ども本人を見立てる難しさ	1
養護教諭の継続的な支援の難しさ	・養護教諭の継続的な支援の難しさ	1
養護教諭自身の資源情報の不足	・養護教諭自身の資源情報の不足	1
支援者の疲労	・支援者の疲労	1

両方の立場を兼ねて対応している場面がある。養護教諭一人での対応には限界があるため、連携や協働を考えて対応している結果ではないだろうか（表3，表4，図3）。

3. アセスメントの段階では、『問題を見立てる能力』のコード数が16と多かった。養護教諭は保健室で子どもとかわりながら、あらゆる情報や子どもを取り巻く環境から、多面的な視点で子どもの状況を見立てることができる立ち位置にいるのではないかと（表4）。
4. 計画立案の段階では、『報告・連絡・相談』のコード数が12と多かった。チームで対応する際には管理職をはじめ、関係職員で協働して対応する必要があることが分かっているがゆえの対応だろう（表5）。
5. 計画立案の段階では、「関係者・専門職とのネットワーク」のコード数が9と多かった。養護教諭はこれまでの経験から、学校だけの対応には限界があると認識しており、関係機関や専門家と連携する上でコーディネーター的な役割を担っていることを理解しているためだろう（表5）。
6. 実施の段階では、『養護教諭の専門性を生かした継続的な心のケア』のコード数が11と多かった。子ども本人が自信を得て自分を立て直し、次のステップへ進むには、子ども本人の気持ちに寄り添い、ありのままの姿を温かく継続的に受け止めることができる保健室での養護教諭のかか

表9 「困難に感じたことにどう対応したか」についてのカテゴリー一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
職場の雰囲気づくり	・養護教諭が支援の輪を広げるための働きかけ	4
	・日頃から養護教諭は保護者・教員と良好な人間関係を築く	1
	・立場の違いを尊重し養護教諭は中立であることを心がける	1
	・コミュニケーションをとることでお互いの苦勞をねぎらい励まし合う	1
管理職への働きかけ	・管理職への働きかけ	4
家族への支援	・家族への支援	4
組織を機能させるための工夫	・会議等で情報や見解を共有しておく	2
	・職員の研修の機会を意図的に計画する	1
	・緊急時の対応を研修しておく	1
	・役割分担を明確にする	1
	・保健室の役割を伝え理解を得る	1
子ども本人への支援の工夫	・子ども本人への支援の工夫	2
	・子ども本人への継続的な支援	2
医療機関・専門家へのつなぎと連携	・医療機関・専門家へつないで改善を図る	2
記録を活用して発信	・職員の協力を得るために記録を活用して発信する	1
関係機関への継続的な働きかけ	・関係機関への継続的な働きかけ	1
スーパーバイザ-の活用	・スーパーバイザ-の活用	1

わりが大切と考える者が多いからではないか（表6）。

7. 実施の段階では、『支援方針の確認』のコードが8と多かった。このことからチームで対応するためには支援方針が必要であり、その支援方針の確認をするために会議や話し合いの場の設定を意識して行う必要がある（表6）。
8. 実施の段階で、『社会資源の活用』のコード数が16と多かった。チームでの対応が必要な事例は、計画立案の段階でも『資源の活用計画』のコード数が11と多かったが、どの段階でも社会資源を活用しての対応が重要であることが分かる（表6）。
9. 評価については、アンケートの回答記述が少なかった。養護教諭個人の思考の中では評価していたとしても、組織として関係職員がそれぞれの評価を共有する段階まではできていないと捉えている養護教諭が多いことが要因と考えられる。評価の部分まで関係職員と共通理解できるように、コーディネーターとして場の設定をすることが課題である（表7）。
10. 養護教諭が“困難に感じたこと”には、『保護者の理解が得にくい』『家庭の問題に介入することの難しさ』に計8のコード数があった。また“困難に感じたことにどう対応したか”についての質問では『家族への支援』のコード数が少なく、かつ具体的方策も少なかったことから、学校だけの対応には限界があることが分かる（表8、表9）。
11. 養護教諭が“困難に感じたこと”には、『教職員間の意識の違い』『組織が機能しない』について、計9のコード数があった。そして、“困難に感じたことにどう対応したか”については「職員の

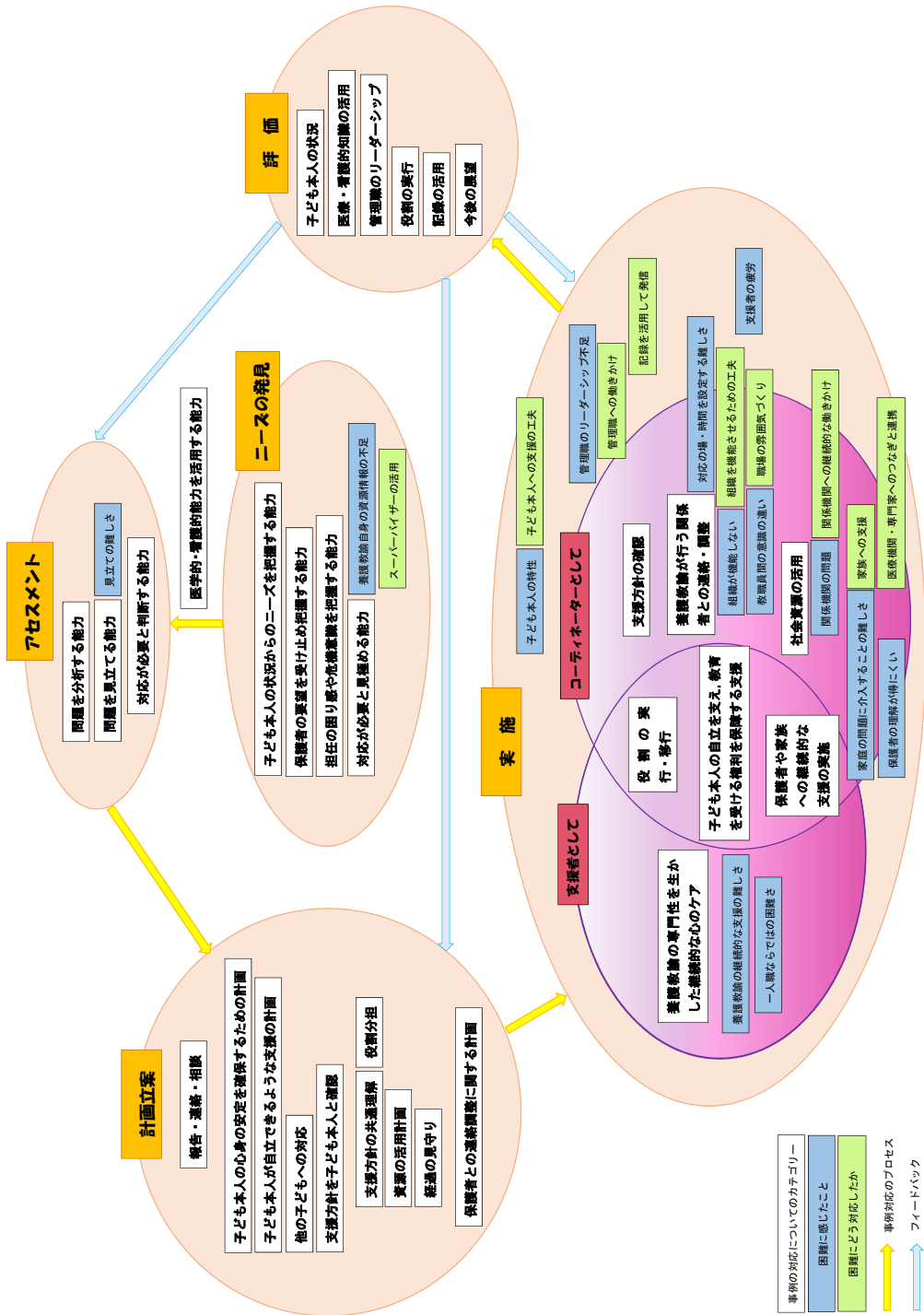


図3 養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすために必要な要素の構造図

研修の機会を意図的に計画」したり、「会議等で情報や見解を共有」したりして、『組織を機能させるための工夫』をしている。また、「(養護教諭は) 支援の輪を広げる働きかけ」をしたり「日頃から(養護教諭は) 保護者・教員と良好な人間関係を築く」ことに努めたりすることで、『職場の雰囲気づくり』をしている(表8, 表9)。

12. 心身の健康問題を持つ子どもへの支援をする事例を解決する過程で、養護教諭が“困難を感じている”のは実施の段階が多く、特にコーディネートする際には、多くの困難を感じていた。計画立案し、養護教諭が支援者として努力したとしても、チームで支援できないと困難を感じるようになった。このことから、養護教諭以外の環境にかかわる要素がコーディネートする上で重要な要素になっていることが分かったが、この結果は考察の1.で述べた内容と同様の結果と言えるだろう(図3, 表8)。

まとめ

1. 養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすために必要な要素は、全ての段階で多く抽出された。養護教諭は子どもと保健室で直接かかわり、子どもの心身の健康問題に対応するために、多くの関係者と連携して、関係機関や専門家などの異なる立場や役割の特性を引き出し、効果的に機能させるために調整しようとしている。
2. ニーズの発見、アセスメントの段階では養護教諭自身の能力が影響しているが、計画立案、実施の段階では養護教諭以外の環境にかかわる要素も大きく影響している。心身の健康問題を持つ子どもを支援する際、養護教諭がコーディネーターとしての役割を果たすためには、養護教諭自身の能力も必要であるが、養護教諭以外の環境にかかわる要素がそろわないとチームとしての連携や支援は難しい。
3. 心身の健康問題を持つ子どもを支援する際には様々な関係者と連携しながら対応していることが構造図から明らかになった。普段、養護教諭は保健室で支援者の立場で子どもとかかわっているが、養護教諭はコーディネーターとしての役割を果たしていることを意識し、コーディネーター的存在として働きかけることが大切だと考えられる。

今後の課題

チームで心身の健康問題を持つ子どもの支援をする際に、養護教諭は養護教諭以外の環境にかかわる要素をうまく機能させるためにどのようなことをしているのか、また、関係職員がそれぞれの評価をどのように共有し、次の対応を再考していくのか等は、質問紙調査の結果からはまだ明らかになっていない。今後はインタビュー調査の結果を分析して研究を深めていきたい。そして、本研究で作成した構造図をさらに精査していき、養護教諭がコーディネーターとして役割を果たすために重要なカテゴリー(概念)を明らかにしていきたい。

注

- 1) 文部科学省（2008）「子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申）」『中央教育審議会』 p.8.
- 2) 文部科学省（2015）「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」『中央教育審議会』 p.28.
- 3) 山田響子・鶴岡和世・齊藤理沙子・岡田加奈子「養護教諭の行う連携に関する用語と連携推進要因の整理」『千葉大学教育学部研究紀要』 62（2014）， pp.139-145.
- 4) 岡本啓子・津島ひろ江「養護教諭のコーディネーション過程を構成する要素の明確化」『日本養護教諭教育学会誌』 13（1）（2010）， pp.55-71.
- 5) 森田裕子・吉田俊和「教師間の連携を構成する要因の検討—養護教諭を対象とした面接から—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』 58（2011）， pp.83-92.
- 6) 北素子・谷津裕子『質的研究の実践と評価のためのサブストラクション』（医学書院，2012）
- 7) グレッグ美鈴・麻原きよみ・横山美江『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして』（医歯薬出版，2008）
- 8) 岡本啓子・津島ひろ江「養護教諭のコーディネーション能力育成の研修プログラムニーズ—全国特別支援学校養護教諭への意識調査から—」『学校保健研究』 53（2011）， pp.250-260.